

## 白馬村地域公共交通（観光交通システム）検討委員会の開催状況について

### 1 設置目的

白馬村地域公共交通会議において協議する事項の内、運行計画に関する調査検討を行う。

### 2 掌握事項

白馬村が実施する住民輸送サービス等の運行計画策定に関する検討をしその結果を白馬村地域公共交通会議に報告する。

### 3 委員構成（18名以内）

- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| (1) 地域住民の代表者 | (5) 地元交通事業者           |
| (2) 民生児童委員   | (6) 行政機関              |
| (3) 各種団体関係者  | (7) 村職員               |
| (4) 医療機関     | (8) その他交通会議会長が必要と認める者 |

#### 白馬村地域公共交通検討委員会名簿（H22.10.1 現在）

選出区分	職 名	委員長 副委員長	
		氏 名	
住 民 代 表	白馬村地域公共交通会議 委員（一般公募）	速水 政文	
住 民 代 表	白馬村地域公共交通会議 委員（一般公募）	渡邊 宏	
事 業 者	川中島バス(株) 白馬営業所長	勝野 英樹	
事 業 者	(有)白馬交通 代表取締役社長	遠藤 清	
観 光 団 体	白馬村観光局次長	松沢 晶二	
観 光 団 体	観光局インバウンド専門委員長	富田 幸延	
観 光 団 体	白馬ツーリズム代表	塩島 真一	
行 政 機 関	白馬村役場 観光農政課長	篠崎 孔一	

## 4 開催状況

### 第1回検討委員会

- (1) 日 時：平成22年10月4日(月)午後3時から午後4時33分
- (2) 場 所：白馬村役場庁議室
- (3) 出席者数：8名 (代理出席1名)
- (4) 内 容：

委員長及び副委員長の選任

委員長に篠崎孔一委員、副委員長に富田幸延委員を互選した。

平成22年度ナイトシャトルバス「元気号」運行計画(案)について協議した。

#### **[事務局説明要約]**

昨年度の運行実績及び昨年度運行に関して観光団体、交通事業者から聴取した意見を参考に今年度運行計画(案)を作成した。

基本的考え方として観光・インバウンドに、よりシフトしたもとしている。

昨年度との変更点は、

発着地をJR白馬駅から和田野エリアを起点とした。

学生の利用がほとんどなかった状況から16時台の運行をやめ、最終便を23時台へ遅らせた(ブルーライン)

北部地域への到着時間を夕食提供時間に合わせ利便性向上を図った。(レッド)

始発時間の変更、八方経由帰路ルートの追加(グリーン)

回数券(1000円で6枚綴り)を新たに発行し、利用促進を図る。

買物希望者の要望に沿い、ジャスコで10分停車時間を設けた。

#### **[検討委員会意見抜粋]**

インバウンドは、経済効果が30億にもものぼると推定され、村にとって大変重要な事業である。

発着地を和田野エリアに戻したのは、宿泊エリアから商業エリア(駅前等)への流れとなり、好ましい。本(案)は、アフタースキーをアピールするにも良い。

運行(案)では、4時間以上の運転に義務付けられている30分の休憩が設けられていない。ジャスコの停車は休憩とみなされない。

ジャスコの10分停車をやめ、発着点で各10分の休憩を設けるダイヤに修正することで了解を得た。

乗車実績から、ブルーライン23時台の運行が必要かとの意見があり、今年度の乗車実績をみて、次年度の検討事項とした。

利用料金収受形態は、村が収受している去年までの形態に問題ないか意見が出され、長野運輸支局の指導を仰ぐこととした。

その他として、国の補助金の動向に対する質問があり、減額されている実態を説明した。

## 5 今後の開催予定

### 第2回検討委員会

開催時期：平成23年4月中旬から5月上旬

協議内容： 冬季シャトルバス「元気号」運行実態報告について

23年度取組予定である観光交通システム運行計画案の策定について